

● 現地見学会



1 文化庁「ふるさと文化財の森」牧の入茅場

茅葺き屋根の貴重な材料である「カリヤス（小茅）」の茅場で、3集落の共有地。1万把が採取可能。長野県内外の多くの文化財の屋根の修復に使われてきた。春には「野火つけ」が行われ、秋に刈った茅立てが並ぶ様は里山の原風景を思わせる。



2 文化庁「ふるさと文化財の森」雨中シヨクの茅場

3集落の共有の茅場で、春は「野火つけ」をし、ススキやカリヤスが採取できる。夏期には茅を刈って巨大な「小谷」の文字を作る。上方からの信越境の山の見晴らしも素晴らしい。中学生の茅刈り体験の会場にもなっている。



3 長野県宝旧千國家住宅

18世紀末期から19世紀初期ころに建てられた間口6間、奥行き10間の奇棟造りの茅葺きの建物。千国街道の輸送に携わった牛方やボッカが寝泊まりした。小谷の茅葺き師が小谷の茅1万4千把を使って修復した。

○ 全国草原サミット 会場 ヴァンヴェール

管内に草原を持つ全国の市町村長が集い、各草原の特徴や草原の抱える課題を報告しあい、それに基づき、課題解決と、今後次世代にどうつなげていくかを論議し、小谷大会サミット宣言を採択します。

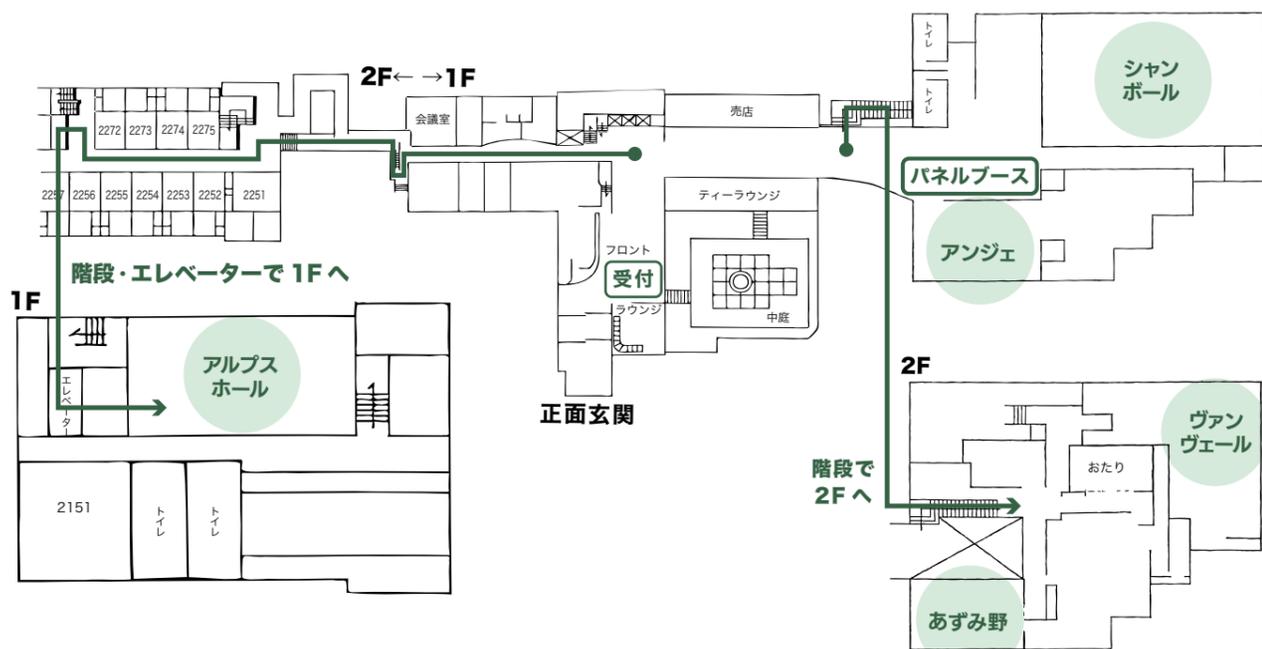


第14回 全国草原サミット・シンポジウム in おたり

つなげよう 茅場かやばが育んだ技術と命

草原に関わる人々が集い、希少となった草原の価値や存在を全国にアピールするとともに、自然や文化財に生かす知識や技術を共有し、全国各地の保全・継承活動の現状や課題について論議を深めながら、草原を未来に残すため連携を図ることを目的として、開催します。

白馬アルプスホテル 館内図



DAY 1

10/4 [金]

○ 「未来に残したい草原の里 100選」認定書授与式 会場 ヴァンバール

○ 09:30 開始 ——— ○ 11:00 終了

● 全国草原シンポジウム 会場 シャンポール

- 12:00 受付
- 12:35 オープニング
- 12:45 開会式
- 13:10 **基調講演**
「カリヤスを刈る、葺く、雪国に暮らす知恵を探る」
- 14:15 **研究報告**
「茅を育て、文化を守り伝える草原～信州小谷村、牧の入茅場から～」
- 15:00 休憩・移動

○ 15:15 **分科会**

- 第1分科会 草原の生物多様性
—維持される仕組みに着目して—
会場 ヴァンヴェール
- 第2分科会 茅刈りと茅葺きを未来につなぐ
会場 アンジェ
- 第3分科会 草原の管理技術を学び伝える
会場 あずみ野
- 第4分科会 草原資源を地域に生かし、次世代につなぐ
会場 アルプスホール

- 16:35 休憩・移動
- 16:45 **全体会** 会場 ヴァンヴェール
- 17:45 シンポジウム終了

● **交流会** 会場 シャンポール ○ 18:00 受付 ——— ○ 18:30 開会 ——— ○ 20:30 閉会

DAY 2

10/5 [土]

● 現地見学会

- 8:30 受付 受付場所 白馬アルプスホテル 第2駐車場（ホテル前の大きな駐車場です。）
- 8:50 出発
- 9:15 見学開始
- 11:15 見学終了・解散 お弁当をお申込の方は解散前に忘れずにお受け取りください。

○ 全国草原サミット 会場 ヴァンヴェール 全国の自治体首長によるサミットとなります。

- 12:00 受付 ——— ○ 12:30 開会 ——— ○ 14:30 閉会



第14回 全国草原サミット
シンポジウム in おたり

第14回全国草原サミット・シンポジウム in おたり 実行委員会

お問い合わせ 小谷村 長野県北安曇郡小谷村大字中小谷丙 131
教育委員会 TEL 0261-82-2587 Mail sougensummit@gmail.com

後援 環境省・農林水産省・文化庁・長野県・長野県教育委員会

この事業は長野県地域発元気づくり支援金を活用しています。

● 全国草原シンポジウム

会場 シャンボール

基調講演 13:10～

「カリヤスを刈る、葺く、雪国に暮らす知恵を探る」

カリヤスの草原は雪の多い山間地域に特有の分布をみせています。これは雪の降る前に刈り取り期を迎えるカリヤスの性質を利用して、良質の茅で丈夫な屋根を葺くためです。雪に負けない大きな茅葺き屋根は、人の暮らしのみならず蚕や牛馬を守り育て、地域の暮らしを支えてきました。カリヤスの草原は急峻な地形で、雪崩や土砂崩れから山里を守る役割も果たしてきています。そこで、カリヤスを刈り、屋根を葺いて、茅場を守り育んできた茅葺き職人の松澤敬夫さんにその営みと知恵をお聞かせします。



筑波大学名誉教授
日本茅葺き文化協会代表理事
安藤 邦廣 氏

工学博士 建築家 里山建築研究所主宰
2010年に日本茅葺き文化協会を立ち上げ、茅葺き文化の普及啓発、職人の育成、茅場の再生、茅葺き民家の保存と活用に取り組む。著書「日本茅葺き紀行」「小屋と倉」「茅葺きの民俗学」他。



小谷村の茅葺き師
松澤 敬夫 氏

昭和17年小谷村生まれ。茅葺き職人だった父親に弟子入り。昭和42年から「小谷屋根」として独立し、多くの民家や文化財建築の茅屋根の葺き替えを手掛ける。平成22年から5年間、伊勢神宮式年遷宮の茅屋根工事に指導的立場で携わる。現代の名工。

研究報告 14:15～

「茅を育て、文化を守り伝える草原～信州小谷村、牧の入茅場から～」

少なくとも江戸時代から火入れによって維持されてきた貴重な草原、「牧の入茅場」。ススキに似たカリヤスを茅として産出し、今なお全国の伝統建築用に茅材を供給する重要な役割を担う、現役の茅場です。人の暮らしに育まれ維持されてきたこの茅場の生態系には、どんな動植物が息息・生育しているのか？また、なぜカリヤスが茅として使われ、火入れにはどんな効果があるのか？など、科学的な切り口から茅場と人の関わりを紹介します。



信州大学教育学部 教授
井田 秀行 氏

北信州の豪雪地でブナ材をふんだんに使った茅葺き古民家との出会いを機に、身近な草木とともにあった伝統的な暮らしの文化を伝えるべく、森・草原・人の関わりを生態学的に追究している。

分科会 15:15～

第1分科会 会場 ヴァンベール

草原の生物多様性 ー維持される仕組みに着目してー

草原の利用・管理と生物多様性維持のあり方を考えるため、全国の市町村より収集した茅場の現状を報告するとともに、茅の質低下が懸念される茨城県の茅場を例に、植物の長期モニタリングデータから植生と茅の質の変化を調べた結果を紹介します。

コーディネーター

信州大学教育学部 教授
井田 秀行 氏

プロフィールは前頁下部を参照



発表者

東京大学農学生命科学研究科
高橋 菜 氏

現在、博士課程にて、茅場の生物多様性と茅利用の文化について研究している。



第2分科会 会場 アンジェ

茅刈りと茅葺きを未来につなぐ

日本の多様な地域性を持つ茅葺きには、未来を考えるヒントがあると再評価されつつあります。先人から脈々と受け継がれてきた茅刈りと茅葺きを、生まれ故郷の小谷で受け継ぐ松澤朋典さんに、その技と知恵、そして未来への取り組みをお聞かせします。

コーディネーター

日本茅葺き文化協会
事務局長 上野 弥智代 氏

筑波大学芸術専門学群建築デザインコース卒業。一級建築士。里山を生かす住まいの設計に取り組み、茅葺き文化の継承と発展のための活動に取り組む。



発表者

(株)小谷屋根
茅葺き師 松澤 朋典 氏

昭和54年生まれ。父敬夫氏に弟子入り。文化財建築の茅屋根を手掛ける。3代目として伝統技術の継承及び普及活動に力を入れている。



第3分科会 会場 あずみ野

草原の管理技術を学び伝える

カリヤス茅場の維持には、伝統的な知恵と技術、そして地域の人々の絶え間ない努力が必要です。それには知恵と技術を若い世代へと伝えていく仕組みが不可欠です。千国地区と雨中地区の代表の方から、そのノウハウをうかがいます。

コーディネーター

東京農業大学地域環境科学部
教授 武生 雅明 氏

小谷村の里地・里山の自然に魅せられ、2011年より研究を開始。田んぼや茅場の生き物の生態を調べている。



発表者

親沢北観光委員会 栗田 優 氏
雨の中林野組合 荻澤 隆 氏

第4分科会 会場 アルプスホール

草原資源を地域に生かし、次世代につなぐ

小谷村中学生が茅葺き屋根の葺き替え作業や草原での野外学習等、草原での学びを成果発表します。「人と自然との関わり」の中で培われた草原資源の宝を発見し、草原を未来につなげるための草原の生かし方を提案します。

コーディネーター

東京農業大学地域環境科学部
教授 町田 怜子 氏

造園学博士。阿蘇の草原景観保全研究に取り組む。未来の担い手の子どものため、小学校などと連携した草原学習の教育活動方策について研究している。



発表者

小谷中学校 3年生

全体会 16:45～

会場 ヴァンベール

各分科会における討議の内容を全員で共有し、総括するとともに、「草原が育んだ知識や技術の伝承」の観点から理解を深め、草原維持のための課題と解決の方向性、役割分担、行政への要望などについて論議します。

コーディネーター

全国草原再生ネットワーク
代表理事 高橋 佳孝 氏

1979年農林水産省に入省以来、草原に関わる幅広い問題に取り組む。現在、阿蘇草原再生協議会会長。専門は草地生態学・草地管理学。

